


空つぼ考

宮坂静生



空つぼになりたし滝道を下る
葉のかたちどれも心臓電が打ち
青りんごわれも流浪の民の裔すえ
樺の葉のたまゆらさやぎ野分前
みんなの地から湧き立ち翁みち

*

春生忌や阿蘇火口縁彷徨さまよひし
(梅崎春生忌 七月十九日)

「人生幻化に似たり」

坊津の春生の詩碑を抱きし夏

チンドン屋見ると泣き出す喝えつ患者かんじや
(喝 日射病)

倒産品完売チンドン屋の九月

芋焼酎あお呷あおる俗物性薄れ

理不尽に青年を追ひつめし雷火
搔くと皮膚くれなるがさす敗戦日

興こう柁ろぎの苗字ひろやか花ダチュラ
(ダチュラ 朝鮮朝顔)

厭戦を煽るダチュラを咲かせよう